

頑張る

農業法人

高齢化が進む中、農作業を共同化して地域の農地を守ろうと、亀岡市旭町の農事組合法人旭は2008年に結成された。農作業受託を中心に

同市が組織化を推進し、88年に4集落の農家組合を統合し、旭町営農組合を設立。集団転作でビール用大麦などを栽培した。

J A京都が委託する水稻苗を生産する他、14年度に新たに設置する農産物直売所を拠点に、農産物の生産・販売・加工の6次産業化や観光農園で都市との交流など、地域活性化への核となる期待が高まる。

99年に、160畝が圃場(ほじょう)整備されたことで、府の「地域農場づくり事業」を導入して、農家の135人が旭農作業受託部会を結成。コンバイン、トラクター、田植え機各2台の農業機械を購入し、稲刈りなどの受託作業に取り組んだ。

旭町は亀岡市の北部に位置し三方を山に囲まれ、平地に水田や野菜畑が広がる地域。美濃田・杉・山階・印地の4集落、総戸数約310戸で構成され、各集落ごとに農家組合がある。

その後、高齢化・担い手不足などで農家から「田を預かってほしい」との声も増え、J A京都中央会や行政の指導を受け、2008年5月に受託部会員も参加して農事組合法人旭を設立した。

1975年ごろから転作の効率化を図るため、

役員は代表理事の平井賢次さん(77)ら理事7人と監査役1人。従業員

農事組合法人 旭

亀岡市旭町



地域農地保全に加え、地域活性化への核を目指す平井さん(左)と理事の人見勝洋さん(中)と若田康裕さん

地域活性化の拠点に

農地保全から都市交流まで

田20畝の農作業と新設したミニライスセンターでの米乾燥調製を受託する。また、J Aからの委託で、3500枚の水稻苗を生産して農家に配る。

これらが主な収入源となつて経営は順調だ。

地域内の市所有地2000平方メートルを借り、新たに建設する農産物直売所を来年中にオープンする計画だ。

同町内だけでなく、近隣地域の営農組織にも農産物や加工品の出品を呼び掛けて多彩な品目の販売や、イチゴなどの観光農園、市民農園の設置、イベント開催などで都市交流拠点を目指す。

平井さんは「法人を核に、地域ぐるみで絆を広げる取り組みで地域を元気にしたい」と強く意気込んでいた。

▽法人所在地 亀岡市旭町千俣20の3 電話 0771(25)1045。

役員は代表理事の平井賢次さん(77)ら理事7人と監査役1人。従業員はアルバイトの事務員1人とパートタイマーのオレ、J Aを通して業者とのもち米契約栽培や、水